

教育目標『夢や目標をもって自ら学び、心豊かで、たくましい児童を育成する。』

美里町立南郷小学校

学校だより

〈第15号〉

平成28年11月28日

文責 教頭 高松 祐士



らぶりー南郷 2016

〒989-4205 美里町木間塚字高田5

Tel 0229(58)1106

Fax 0229(58)0461

<http://nango-es.misato-ed.jp>

「笑顔でワッショイ!なるせ祭り」

22日(火)に行われた「なるせ祭り」。3年生から6年生は、みんなに楽しんでもらおうと工夫を凝らしたお店やアトラクションを考え、各クラスで協力して準備を進めてきました。開会式では、1・2年生が楽しみにしている様子を感じられ、その目はキラキラ輝いていました。また、準備を進めてきた3年生～6年生からも「さあ、やるぞっ!」という意気込みが感じられました。全校児童がワクワクしながら準備を進めてきた「なるせ祭り」。全校児童の笑顔が見られた行事となりました。閉会式に臨む子供達の顔から満足感があふれていました。感想発表からも「楽しかった」「おもしろかった」という言葉をたくさん聞くことができました。

また、なるせ祭りはフリー参観を兼ねて行ったところ、多くの保護者の皆様にご来校いただきました。ありがとうございました。



「平成28年度学力・学習状況調査の結果」について(南郷小学校の結果概要)

これからも「心の成長」をめざしていきます !!

4月に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。基本的生活習慣や学校生活などの項目で全国や県の平均とほぼ同様な数値となりました。

特に、「朝食を毎日食べていますか」や「学校きまりを守っています」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」等のポイントが高く、昨年度同様に心の成長が見られました。このことは、本校の強みになっています。

『学力』と『心の成長』は両輪で働きます。学力にも心の成長がよい影響を与えており、「目的や意図に応じて、書く事柄を整理することや目的に応じて、図と表とを関連付けて読むこと」は全国や県のポイントより上になっていることが分かりました。詳しい結果分析と考察、改善

策等については裏面のとおりです。

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果について

おめでとう!!

読書感想文コンクール

地区入選 2年 鈴木 杜萌 さん
管内入選 2年 佐藤 音和 さん

JAみどりの児童作品コンクール

優秀賞(書道) 6年 山村 香澄 さん
優秀賞(図画) 1年 成澤 幸奈 さん
努力賞(硬筆) 1年 青野 千春 さん
2年 畑中隼之介 さん
2年 松田 海音 さん
努力賞(書道) 3年 安部 晴翔 さん
4年 山村 里美 さん
6年 原 純風 さん
努力賞(図画) 1年 土肥 滉生 さん
2年 山口 ひろ さん
2年 小茄子川蓮斗さん

造形教育作品展

県入選 2年 渡辺 菜那 さん
4年 木村 珀斗 さん
5年 野田 温夫 さん
地区優秀賞 1年 須藤 美祐 さん
1年 成澤 幸奈 さん
2年 千葉 直哉 さん
3年 倉島 実雅 さん
3年 白石 悠貴 さん
5年 栗田 広夢 さん
6年 木村 光来 さん
6年 八木 里帆 さん

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展

入選 4年 山村 里美 さん
5年 土肥 優広 さん

福祉作文コンクール

佳作 4年 小高 魁斗 さん

12月



1日(木) 業間マラソン
2日(金) 学習参観日
4日(日) マーチング(ウレハ中学生バスケットボールハーフトレイング)
5日(月) カウンセラー来校
6日(火) ALT来校、全校5校時限
7日(水) 児童集会、全校5校時限
5年校外学習(トヨタ自動車)

8日(木) 業間マラソン、委員会活動
9日(金) 4年書きぞめ練習会(5・6校時)
13日(火) ALT来校
14日(水) 3年書きぞめ練習会(5・6校時)
15日(木) 清掃週間(~21日)、業間マラソン
16日(金) CRT学力検査
20日(火) ALT来校、1・2年ハッピーまつり、職員会議
21日(水) 美化の日
22日(木) 第2学期終業式
23日(水) 天皇誕生日
24日(木) 冬季休業日(~1/7)
29日(火) 学校閉庁日(~1/3)



美里町立南郷小学校

1 教科の領域別における分析結果と学習指導に当たって

(1) 国語科

①主として「知識」に関する問題

<話す・聞く>

- 「目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う」力が十分でない。

<書くこと>

- 「目的や意図に応じて、書く事柄を整理する」ことができている。

<読むこと>

- 「目的に応じて、図や表とを関係付けて読む」ことができている。

- 「登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える」ことが十分でない。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

- 「漢字を正しく書く」ことができていない。

②主として「活用」に関する問題

<話す・聞く>

- 「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する」ことが十分でない。

<書くこと>

- 「グラフを基に、分かったことを的確に書く」ができている。

<読むこと>

- 「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」ことが十分でない。
- 「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」ことが十分でない。

③児童質問紙の結果から

- 国語科に対する興味・関心が低い。
- 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりすることが十分できていない。
- 自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように書くことが十分できていない。
- 文章の内容を正しく読み取ることができない。

<学習指導に当たって>

- ・自分の考えを書いたり話したりするときには、考えの理由が分かるようにする。
- ・書く活動、話し合いの場を意図的に設定する。
- ・普段から話し合いの内容などを注意しながら聞き合うことができるようにする。
とともに必要に応じてメモやノートに整理して聞く習慣付けをする。
- ・「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」ことに慣れさせる。

(2) 算数科

①主として「知識」に関する問題

<数と計算>

- 「末尾の位のそろっていない小数の加法の計算」をすることができる。
- 「数の大小」を理解している。
- 「除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらない」ことを十分理解していない。

<量と測定>

- 「単位量当たりの大きさの求め方」を十分理解していない。
- 「三角形の底辺と高さの関係」について十分理解していない。

<図形>

- 「図形の構成要素に着目して、図形を構成する」ことができる。

<数量関係>

- 「全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味」について理解している。
- 「1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係」を十分理解していない。

②主として「活用」に関する問題

<数と計算>

- 「示された式に数値を当てはめて目標のタイムを求める」ことが十分できない。
- 「縦にかくことができる正方形の数を求め、24個の正方形をかくことができる理由」を記述できない。

<量と測定>

- 「示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する」ことができない

<図形>

- おおむねできている。

<数量関係>

- 「グラフから数値を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述する」ことができる。

③児童質問紙の結果から

- 算数に対する興味・関心が高い。
- 難しい問題に対しても挑戦しようとする。

- 解き方が分からないときは、あきらめてしまう。
- 公式やきまりのわけを十分に理解できていない。
- 言葉や数、式を使って、わけや求め方を書くことができない。

<学習指導に当たって>

- ・問題文を読み、場面を図や数直線などで表すことにより、問題場면을把握しやすくする。
- ・言葉や数、式を使って、わけや求め方を書いたり説明したりする機会の設定をする。
- ・誤答の理由を考えさせたり、未完成な考えをみんなで完成させたりする機会を大切にする。
- ・新たな問題を解くとき、どの既習事項が使えるか全体で確認してから取り組ませる。

2 児童生徒質問紙の内容別における分析と考察

(1) 基本的な生活習慣

- 朝食の摂取率や睡眠時間については、よくできている。
- テレビやゲームの時間が長い。
- 携帯電話やスマートフォンの使用機会や時間が長くなってきている。

(2) 学校生活

- 学校生活を楽しく感じ、友達と会うことを楽しみにしている。

(3) 言語活動

- 友達の考えを最後まで聞こうとしている。
- 友達の前で自分の考えや意見を発表することは不得意と感じている。

(4) 学習時間等

- 宿題を中心に家庭学習に計画的に取り組んでいる。
- 家庭学習の時間が短く、平日と土日の時間が変わらない。
- 読書に対する興味が低く、図書室の利用も少なく、読書時間が短い。
- 新聞、ニュースを見る機会が少ない。

(5) 自尊感情

- 難しいことでも失敗を恐れず挑戦しようとしている。
- 自分にはよいところがあると思う児童の割合が低い。
- 最後までやり遂げてうれしい経験をしている児童の割合が低い。

(6) 将来に関する意識

- 将来に対する夢や目標を持っている児童の割合が低い。

(7) 規範意識

- 学校のきまりや友達との約束をきちんと守ろうとする意識が高い。
- いじめはどんなことがあってもいけないことだという意識が高い。
- 人の役に立ちたいと思う意識が高い。

改善のために

- ・基本的な生活習慣、学習習慣を身に付けさせるための家庭との連携
(「めざせ家庭学習」、家庭学習の手引きなどの活用)
- ・学校生活全般での互いのよさを認め合う機会を大切にする。
- ・志教育の推進
- ・新聞、ニュースの活用
- ・「失敗してもまたやり直す子どもの育成」と失敗をフォローし合える学級づくり